

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国 16年2月) ～全国のコアCPIは16年3月にマイナスへ

経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コアCPI上昇率は2ヵ月連続でゼロ%

総務省が3月25日に公表した消費者物価指数によると、16年2月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コアCPI）は前年比0.0%（1月：同0.0%）となり、上昇率は前月と変わらなかった。事前の市場予想（QUICK集計：0.1%、当社予想は0.0%）を下回る結果であった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合は前年比0.8%（1月：同0.7%）と上昇率が前月から0.1ポイント拡大、総合は前年比0.3%（1月：同0.0%）となった。

消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

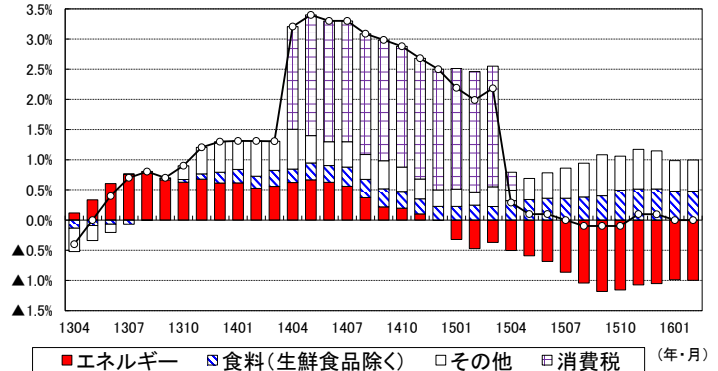
	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合
14年 10月	2.9	2.9	2.2	2.5	2.6	2.1
11月	2.4	2.7	2.1	2.1	2.4	1.8
12月	2.4	2.5	2.1	2.2	2.3	1.8
15年 1月	2.4	2.2	2.1	2.3	2.2	1.7
2月	2.2	2.0	2.0	2.3	2.2	1.7
3月	2.3	2.2	2.1	2.3	2.2	1.7
4月	0.6	0.3	0.4	0.7	0.4	0.0
5月	0.5	0.1	0.4	0.5	0.2	0.1
6月	0.4	0.1	0.6	0.3	0.1	0.2
7月	0.2	0.0	0.6	0.1	▲0.1	0.3
8月	0.2	▲0.1	0.8	0.1	▲0.1	0.4
9月	0.0	▲0.1	0.9	▲0.1	▲0.2	0.6
10月	0.3	▲0.1	0.7	0.1	▲0.2	0.4
11月	0.3	0.1	0.9	0.1	0.0	0.6
12月	0.2	0.1	0.8	0.1	0.1	0.6
16年 1月	0.0	0.0	0.7	▲0.3	▲0.1	0.4
2月	0.3	0.0	0.8	0.1	▲0.1	0.5
3月	—	—	—	▲0.1	▲0.3	0.6

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コアCPIの内訳をみると、ガソリン（1月：前年比▲16.7%→2月：同▲15.8%）、灯油（1月：前年比▲26.3%→2月：同▲25.4%）の下落幅は縮小したが、電気代（1月：前年比▲6.4%→2月：同▲7.6%）、ガス代（1月：前年比▲7.6%→2月：同▲8.3%）の下落幅が拡大したため、エネルギー価格の下落率は前年比▲10.9%となり、1月の同▲10.7%とほぼ変わらなかった。

また、円高の影響などから輸入物価ベースの食料品は前年比で大幅な下落となっているが、消費者物価の食料（生鮮食品を除く）は前年比2.1%（1月：同2.1%）と高止まりが続いている。

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解



(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

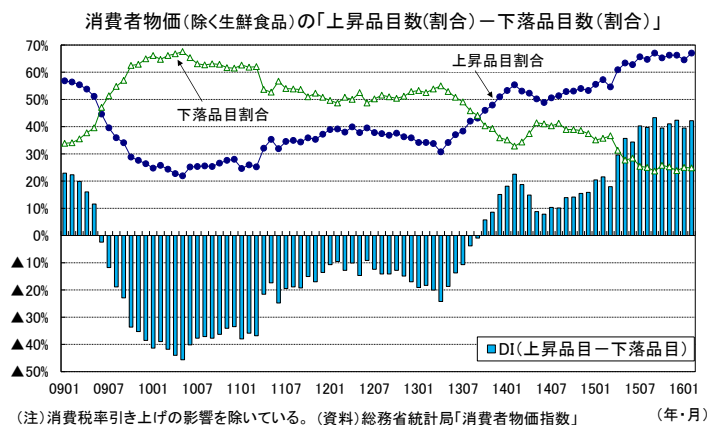
コアCPI上昇率を寄与度分解すると、エネルギーが▲1.00%（1月：▲0.99%）、食料（生鮮食品を除く）が0.48%（1月：0.48%）、その他が0.52%（1月：0.51%）であった。

2. 物価上昇品目数の割合は引き続き6割を上回る

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、2 月の上昇品目数は 351 品目（1 月は 338 品目）、下落品目数は 130 品目（1 月は 131 品目）となり、上昇品目数が前月から増加した。

上昇品目数の割合は 67.0%（1 月は 64.5%）、下落品目数の割合は 24.8%（1 月は 25.0%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は 42.2%（1 月は 39.5%）であった。

コア CPI 上昇率はゼロ近傍の推移が続いているが、品目数で見れば引き続き 6 割以上の品目が値上がりしており、物価上昇の裾野の広がりには維持されている。



3. 全国コア CPI は 16 年秋頃までマイナスが続く公算

16 年 3 月の東京都区部のコア CPI は前年比▲0.3%（2 月：前年比▲0.1%）と 3 ヶ月連続の下落となり、下落率は前月から 0.2 ポイント拡大した。

事前の市場予想（QUICK 集計：▲0.2%、当社予想も▲0.2%）を下回る結果であった。

電気代（2 月：前年比▲11.8%→3 月：同▲13.7%）、ガス代（2 月：前年比▲15.3%→3 月：同▲17.8%）、ガソリン（2 月：前年比▲16.0%→3 月：同▲21.6%）、灯油（2 月：前年比▲17.0%→3 月：同▲17.6%）の下落幅がいずれも拡大したため、エネルギー価格の下落率は 2 月の前年比▲13.5%から同▲16.0%へと拡大した。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲1.08%（2 月：▲0.90%）、食料（生鮮食品を除く）が 0.39%（2 月：0.43%）、その他が 0.50%（2 月：0.37%）であった。

原油価格（ドバイ）は 1 月中旬の 1 バレル＝20 ドル台半ばから足もとでは 30 ドル台後半まで持ち直しているが、電気代、ガス代は原油価格下落の影響が遅れて反映されるため、エネルギー価格の下落ペースは 16 年夏場にかけて加速することが見込まれる。また、エネルギー以外の物価上昇圧力は依然強いものの、年明け以降に進んだ円高に伴う輸入物価下落の影響で食料品やその他の上昇率も先行きは頭打ちとなる可能性が高い。

現時点では、全国のコア CPI 上昇率は 16 年 3 月にマイナスに転じた後、秋頃までマイナス圏の推移が続くと予想している。

